

シンビジウム 1月の管理について

1 かん水

エルメコノズル等を利用した頭上かん水を主体とし、水のかかりが悪いところはホースによる手かん水を併用してかん水ムラを防ぎます。

回数は2～4日に1回程度、時間はエルメコノズルで10分間を目安とし、鉢底から水が十分に流れる程度にたっぷり与えます。

回数やかん水時間は、品種やリードバルブの生育状況により加減してください。

開花期には灰色かび病等により花卉を傷めることがあるので、注意してください。

2 施肥

開花株は油カスを月1回、7号鉢で7g、8号鉢で10gを基準に施用します。但し、肥料に敏感な品種は、窒素分を控えめに管理しましょう。

ロング等の緩効性被覆肥料も利用でき、3～6か月に1回の施用でよいため省力的です。施肥量は窒素分量で、その期間中に与える油カスと同程度を目安とします。

3 温度管理

加温温度は出荷時期により調整しますが、1～3月出荷は10～15℃で加温しましょう。

日中は25℃以上にならないように換気し、花茎の軟弱化や落蕾を防止しましょう。

4 保温対策

省エネの基本は保温です。被覆資材の隙間をしっかりとふさぐなど、「施設園芸省エネルギー生産管理チェックシート」（農林水産省）を活用して、燃料費の節約に努めましょう。

施設園芸省エネルギー生産管理チェックシート

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/pdf/tyekku.pdf>

農林水産省地球温暖化対策のHP（後半の参考資料に省エネ対策資料があります）

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/>